

スクリーンに誇り、伝えきれない沖縄。

ドキュメンタリー映画

標的の村



二〇一二年九月二十九日。
アメリカ軍・普天間基地は県民により完全に封鎖された。
この前代未聞の出来事を「日本人」は知らない。

制作 2013年 琉球朝日放送 監督 三上智恵 (C)琉球朝日放送

2014年8月2日(土)

会場 **せんだいメディアテーク 7Fスタジオシアター**

①10:30 ②13:50 ③15:50 ④18:00 各91分

(『映画 日本国憲法』 特別上映 12:10~13:30)

参加費 一般 前売り 1,000円 当日 1,300円
学生 500円 当日も同じ・中学生以下無料

プレイガイド **メディアテーク 1F museumshop6**
(6月より販売) **藤崎プレイガイド**

日本にあるアメリカ軍基地・専用施設の 74%が密集する沖縄。

5年前、新型輸送機「オスプレイ」着陸帯建設に反対し座り込んだ東村・高江の住民を国は「通行妨害」で訴えた。反対運動を委縮させる SLAPP 裁判※1だ。

我が物顔で飛び回る米軍のヘリ。自分たちは標的なのかと憤る住民たちに、かつてベトナム戦争時に造られたベトナム村※2の記憶がよみがえる。

10万人が結集した県民大会の直後、日本政府は電話一本で県に「オスプレイ」配備を通過。

2012年9月29日、強硬配備前夜、台風17号の暴風の中、人々はアメリカ軍普天間基地ゲート前に身を投げだし、車をならべ22時間にわたってこれを完全封鎖したのだ。

(映画『解説』より抜粋)

『標的の村』は僕たちに問いかけてくる。あなたたち=日本はなぜこんなことを私たち=沖縄に無理強いするのかと

—金平茂紀(TVジャーナリスト)—

復帰後40年経ってなお、切り広げられる沖縄の傷。

沖縄の人々は一体誰と戦っているのか。奪われた土地と海と空と引き換えに私たち日本人は何を欲してきたのか。

※1 SLAPP 裁判

国策に反対する住民を国が訴える。力のある団体が声を上げた個人を訴える弾圧・恫喝目的の裁判をアメリカでは SLAPP (strategic lawsuit against public participation)裁判と呼び、多くの州で禁じられている。

※2 ベトナム村

1960年代、ベトナム戦を想定して沖縄の演習場内に造られた村。農村に潜むゲリラ兵を見つけ出して確保する襲撃訓練が行われていた。そこで、高江の住民たちがたびたび南ベトナム人の役をさせられていた。

特別上映

『映画 日本国憲法』 12:10~13:30

憲法とは誰のものか、平和憲法の意義について、ジョン・ダワー、ベアテ・シロタ・ゴードン、日高六郎、班忠義、ノーム・チョムスキーなど、世界的な知の巨人たちが語った、貴重なインタビュー集です。解釈改憲による集団的自衛権の行使容認によって、再び「戦争出来る国」をめざす政権をいなく、改めて憲法と向き合う私たちに大きな示唆を与えてくれる作品。是非、ご覧ください。『標的の村』鑑賞の方は無料です。

主催 「テロにも戦争にもNOを！」の会

連絡先 090-7936-3437 須藤 022-248-2866 春日